



『消化器のがんについて』

20年以上前ですが、“がんと診断したら治療は外科に紹介し、内科の対象から外れる”という講義を受けました。臨床の間でも、癌は患者に絶対教えるはいけないと指導されました。また、痛み止めはなるべく我慢させるという考えも残っていました。当時は疼痛コントロール法が確立されておらず、副作用で息がとまったり、中毒となった方もみたことがあり、仕方がなかったのかもしれませんが。

ご存知の事と思いますが、現在では内視鏡下での癌切除の適応が広がり、早期の消化管がんであれば、まず内科での治療が検討されます。また、安全な検査、治療とともに、いかに患者の苦痛をやわらげられるかも大きなテーマとなっています。病気がみつかったら大変だと、冷静に考えればもっと大変なことになるのはわかっているけども、検査や治療を拒否する方もまれにいらっしゃいます。

苦痛を避けたいという気持ちは皆一緒です。異常を感じなくても、早期発見につながる定期的な検査をオススメいたします。



鹿児島厚生連病院
消化器内視鏡外科部長
中島 三郎